

2023年度上半期 決算説明会

2023年11月22日

ヤ シマ
八洲電機株式会社

東証 プライム市場

証券コード：3153

代表取締役社長 兼 C O O

清宮 茂樹

専務執行役員 事業統括本部長

松崎 正

常務執行役員 経営統括本部長

織田 富造

清宮

- | | |
|---------------------|------|
| 1. 経営方針 | P. 4 |
| 2. 2023年度上半期 連結経営成績 | P. 8 |

松崎

- | | |
|---------------|--------|
| 3. コア技術・セグメント | P. 1 3 |
|---------------|--------|

織田

- | | |
|--------------------|--------|
| 4. 2023年度上半期 決算の概況 | P. 2 1 |
| 5. 株式関連 | P. 2 6 |

本資料に関するご注意

(将来予想について)

業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。

(画像使用について)

使用している一部の画像は、イメージ画像を使用しております。

無断転載・複製は禁止しております。

経営方針

経営方針

パーパス

社会において
果たすべき使命

理念

信・愛・和

信は、「社会に信用・信頼される会社」
愛は、「社会に奉仕する会社」
和は、「社会に協力・協調する会社」を表す

共有すべき価値観

ビジョン

クオリティの高いサービスを通じ
お客様と共に価値を創造する
ベストプランナーとして
環境配慮型社会に貢献する

実現するための手段

戦略

事業・コア技術・人財・
中期経営計画・ブランド etc.
(時代に合わせ変化し続ける)

高度情報化時代に対応し、社会に貢献する「エンジニアリング会社」
として、付加価値の高い技術・サービスを提供し、
お客様とともに未来を創る。 (中期経営計画ビジョン)

事業ポートフォリオ変革

G X / DX
グリーン・デジタル

「信・愛・和」

**八洲
ブランド**

付加価値

ブランド戦略

ウェルビーイング
経営

主要産業(当社お客様)のGX／DX投資

2050年

カーボンニュートラルの実現

2030年

- 温室効果ガスを
46%削減(2013年度比)
- 国内DX市場3.8倍
(2020年度比)

GX

・ 鉄鋼	高炉水素還元技術とCO ₂ 分離回収技術等、 水素直接還元の技術開発	10兆円
・ エネルギー	CO ₂ フリー水素のサプライチェーン構築、 「メタネーション」に向けた技術開発等	環境債 950億円
・ 化学	燃料転換の推進、 バイオ燃料の活用他	7.4～9.7兆円
・ ヘルスケア	医薬品製造業界	10億円
・ 鉄道	燃料電池鉄道車両の開発、 バイオディーゼル燃料の活用	800億円程度 (サステナビリティボンド利用)* 変動する可能性あり

GX

▶ 2050年カーボンニュートラル実現のためには…
日本国内で**約411.8兆円**必要となる

DX

▶ 2030年DX国内市場は**約6.5兆円**規模と
予測される

**エンジニアリングでGX/DX投資を取込み、
経営課題・社会課題解決に貢献する**

2023年度上半期 連結経営成績

2023年度下半期 連結経営成績

2023年度上半期 経済・事業の概況

<経済概況>

雇用・所得環境が改善するなか、堅調な企業収益等を背景に、企業の設備投資においてはデジタル化・脱炭素化の潮流により増加傾向にあり、景気は緩やかに回復。
その一方で、原油高・円安の進行による原材料価格や物価の上昇、世界的な地政学リスクが高まる等、依然として景気回復への懸念が残る状況。

<事業概況>

エンジニアリング会社として、更なる進化を目指す

八洲ブランドである「電機制御システム」「電源システム」「空調システム」の3つのコア技術を活かしたソリューションエンジニアリング力の強化

付加価値の増大と
収益基盤の拡大を図る

お客様のグリーン化(GX)投資、
デジタル化(DX)投資、
事業変革投資を取り込む

エンジニアリング力で、
社会課題やお客様の経営課題を解決

事業規模の拡大

ウェルビーイング経営
(健康経営等)に取り組む

従業員の
エンゲージメント
向上を図る

「働きやすい、
働き甲斐のある企業」
を目指す

生産性の向上と
業績向上を実現

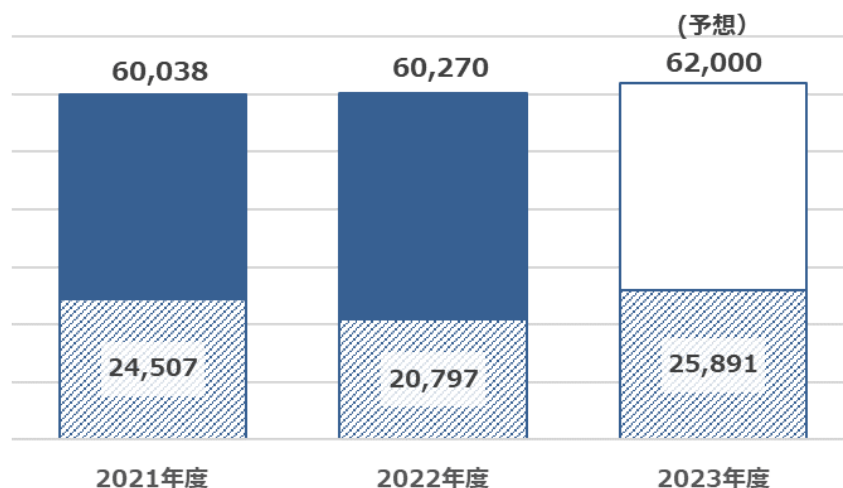
2023年度上半期 経営成績

売上高、各段階利益はいずれも大幅な増収増益

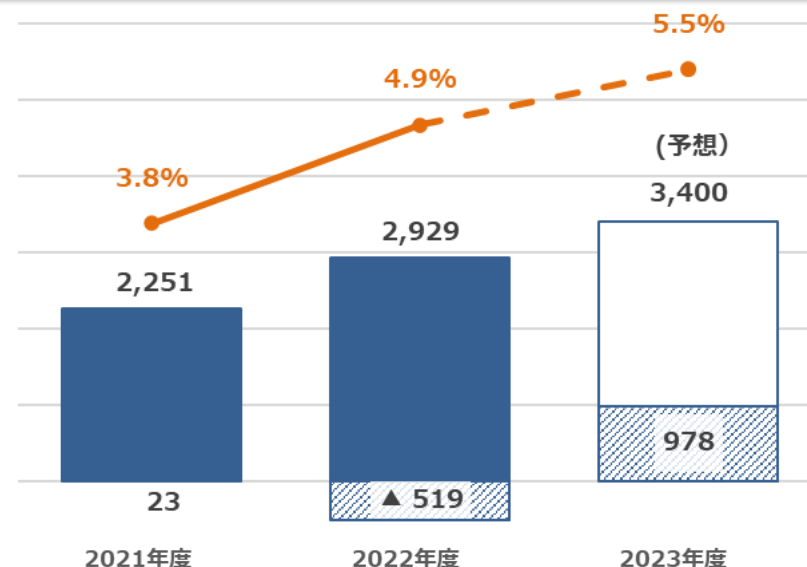
(金額単位：百万円)

	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	対前年同期	
			差額	増減率
売上高	20,797	25,891	+ 5,094	+ 24.5%
営業利益	▲ 571	923	+ 1,494	—
経常利益	▲ 519	978	+ 1,498	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲ 405	623	+ 1,029	—

売上高



経常利益・経常利益率



受注案件が、単年度受注から大型化・長納期化し、年度を跨る案件が増加
従来の下期集中から、上期が増加する傾向

長期に稼働した設備の老朽化更新案件に加え、カーボンニュートラル等により、
お客様が推進する事業変革に伴う新規案件を獲得

コロナ渦で停滞していた設備投資が再開し、
人手不足の深刻化や、労働環境の変化により対応が難しくなっている中、
エンジニアリング力が評価され、信頼を獲得できたことで、案件が増加

2023年度 業績予想

2023年9月20日に
業績予想を上方修正

プラント事業を中心に、老朽設備の維持・保全等の
大型工事案件が好調に推移
付加価値の高いエンジニアリング案件に注力

退職金制度の見直し

制度変更に係る一時費用を特別損失に計上予定

(金額単位：百万円)

	2022年度 実績	2023年度 予想	対前年度	
			差額	増減率
売上高	60,270	62,000	+ 1,729	+ 2.9%
営業利益	2,794	3,300	+ 505	+ 18.1%
経常利益	2,929	3,400	+ 470	+ 16.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,916	2,100	+ 183	+ 9.6%

コア技術・セグメント

コア技術・セグメント

エンジニアリングでお客様の**経営課題**を解決します！

八洲電機グループ

八洲ブランド～3つのコア技術～



電機制御システム



電源システム



空調システム

(営業)
経営課題を
把握する

(エンジニア)
経営課題を
解決する

エンジニアリングフロー

プレエンジニアリング・設計・製作・施工・試運転・保守サービス

トータルソリューション

八洲ブランド～3つのコア技術～



電機制御システム

鉄鋼・エネルギー・ガス・
化学分野等のプラント設備
構築に最先端の技術で
お応えします。

ビジネスフィールド

鉄・非鉄、エネルギー関連のプラ
ントや、公共水道施設、一般産業分野
等

システム技術

PLC※システム・製品自動搬送シ
ステム・ドライブ装置・高圧ダイレク
トインバーター・監視制御装置・計
測制御システム・水処理設備 等



電源システム

最適な電源ソリューション
を提供し、電気の安定給・
省エネに貢献します。

ビジネスフィールド

鉄・非鉄、エネルギー、化学・ガス、
医薬品工場、鉄道、商業施設 等

システム技術

特高・高圧受変電設備・配電設備・
自家発電設備・鉄道直流変電設備・
無停電電源装置・再生可能エネル
ギー・電力監視制御システム 等



空調システム

最新の知識と高い技術力で、
安全・安心・快適な環境を
お届けします。

ビジネスフィールド

工場、データセンター、大学・研究
施設、病院・介護施設、オフィスビ
ル、商業施設、鉄道施設 等

システム技術

一般空調設備・冷蔵・冷凍室の低温
設備・クリーンルーム・バイオハ
ザード対策施設等の特殊空調設備・
冷熱源設備・圧縮空気設備・デー
タセンター用高顕熱空調設備 等

セグメント

社会インフラに携わるお客様を中心にお取引をしています。
エンジニアリングでお客様の経営課題を解決します。

プラント事業

鉄鋼・エネルギー・ガス・
化学等のプラント分野に
エンジニアリングで貢献

産業・設備事業

公共工事・医薬品・精密
機器・建築等の幅広い業界
に貢献

交通事業

鉄道業界の車両・変電・
信号情報・機械設備分野に
エンジニアリングで貢献



事例紹介

成田国際空港ターミナルビル 受変電設備更新工事（13か所）

更新工事を行う際の遵守事項

- ・ テロ対策のための情報漏洩対策
- ・ 16の法律・規程等
(航空法、建築基準法、消防法、
内線規程、空港管理規程、
建築施設・建築設備の耐震設計指針 等)
- ・ 空港運営に支障が出ないように、
航空会社とのスケジュール調整



エネルギー消費量が多い
ターミナルビルの受変電設備を納入

お客様が目指す
カーボンニュートラルに貢献

事例紹介

東京都水道局 朝霞浄水場 変電設備 更新工事

エンジニアリング活用

- ・大規模太陽光発電※で発電した電力を変換する変電設備の更新工事を受注。

※太陽光発電パネル6,000枚以上

朝霞浄水場の浄水処理は170万 m^3 /日

敷地面積
約23 km^2



変換効率の良い
変電設備を納入

お客様が目指す
再生可能エネルギーによる環境負荷低減に貢献

事例紹介

東武鉄道 N100系新型特急 スペーシアX

八洲電機が取纏めを行い、
トータルソリューションを提供

- ・ 車体
- ・ インバーター
- ・ モーター
- ・ 保安装置
- ・ 空気清浄機
- ・ カフェカウンター 等



安全・快適な
運行を実現

CO2削減
環境に配慮

旅の高揚感を
高める事に貢献

鉄道技術展に出展

第8回鉄道技術展2023(2023年11月8日～10日開催)

効率化ソリューション

「車両」「変電」「信号・情報」
「機械・設備」の4つの分野の
パネルやデモ機等を展示



＜車両＞
ドライアイス
ブラスト
洗浄装置



＜変電＞
非常用
仮設配電盤



＜信号・情報＞
A I アバター
案内サービス



＜機械・設備＞
車両基地設備への
取組み

車両基地設備への取組み
八洲電機株式会社



今後もエンジニアリング力による
付加価値の高い技術・サービスを提供

2023年度上半期 決算の概況

2023年度上半期 決算の概況

2023年度上半期 経営成績

付加価値の高いエンジニアリング案件に注力し、
売上高、各段階利益はいずれも大幅な増収増益となった。

(金額単位：百万円)

	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	対前年同期	
			差額	増減率
売上高	20,797	25,891	+ 5,094	+ 24.5%
営業利益	▲ 571	923	+ 1,494	—
経常利益	▲ 519	978	+ 1,498	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲ 405	623	+ 1,029	—

連結貸借対照表

(金額単位：百万円)

	2022年度	2023年度 第2四半期	対前年度	
			差額	増減率
流動資産計	45,872	33,645	▲ 12,227	▲ 26.7%
固定資産計	12,865	12,878	+ 13	+ 0.1%
資産合計	58,738	46,523	▲ 12,214	▲ 20.8%
流動負債計	32,881	20,433	▲ 12,448	▲ 37.9%
固定負債計	1,464	1,291	▲ 172	▲ 11.8%
負債合計	34,346	21,724	▲ 12,621	▲ 36.7%
純資産合計	24,392	24,798	+ 406	+ 1.7%
負債純資産合計	58,738	46,523	▲ 12,214	▲ 20.8%

増加要因

- ・電子記録債権 (15億75百万円増)
- ・商品 (9億50百万円増)

減少要因

- ・受取手形、売掛金及び契約資産 (109億44百万円減)
- ・現金及び預金 (26億46百万円減)

増加要因

- ・契約負債 (2億27百万円増)

減少要因

- ・支払手形及び買掛金 (104億50百万円減)
- ・未払金 (15億34百万円減)
- ・未払法人税等 (3億54百万円減)
- ・賞与引当金 (1億32百万円減)

増加要因

- ・利益剰余金 (93百万円増)

連結キャッシュ・フロー計算書

(金額単位：百万円)

		2022年度	2023年度	対前年同期
		第2四半期	第2四半期	差額
	営業活動によるキャッシュ・フロー	▲ 99	▲ 1,773	▲ 1,673
	投資活動によるキャッシュ・フロー	+ 9	▲ 72	▲ 82
	財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 623	▲ 758	▲ 135
現金同等物の増減額		▲ 713	▲ 2,605	▲ 1,891
現金同等物の期首残高		10,567	11,332	765
現金同等物の期末残高		9,854	8,727	▲ 1,126

プラス

- ・売上債権の減少額 (96億35百万円)
- ・未収入金の減少額 (14億44百万円)

マイナス

- ・仕入債務の減少額 (105億72百万円)
- ・未払金の減少額 (15億52百万円)
- ・棚卸資産増加額 (10億55百万円)

マイナス

- ・有形固定資産の取得による支出 (33百万円)
- ・その他の支出 (26百万円)

マイナス

- ・配当金の支払額 (5億28百万円)
- ・短期借入金の返済による支出 (1億90百万円)
- ・長期借入金の返済による支出 (30百万円)

セグメント別経営成績

(金額単位：百万円)

	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	対前年同期	
			差額	増減率
売上高	20,797	25,891	5,094	+ 24.5%
プラント事業	4,902	9,230	4,327	+ 88.3%
産業・設備事業	12,786	14,160	1,374	+ 10.7%
交通事業	3,108	2,501	▲ 607	▲ 19.5%
営業利益	▲ 571	923	1,494	—
プラント事業	212	1,295	1,082	+ 509.5%
産業・設備事業	250	726	475	+ 189.6%
交通事業	44	46	2	+ 4.7%
調整額	▲ 1,079	▲ 1,144	▲ 65	—
受注残	55,739	65,890	10,151	+ 18.2%
プラント事業	19,707	22,048	2,341	+ 11.9%
産業・設備事業	19,137	23,491	4,354	+ 22.8%
交通事業	16,894	20,350	3,456	+ 20.5%

株式関連

株式関連

上場維持基準の適合状況

2021年6月30日

2021年12月15日

2022年12月31日

2023年12月31日(想定)

・移行基準日
「プライム市場」
上場維持基準の
適合状況は、
1日平均売買代金
について基準を
充たさず。

「新市場区分の上場
維持基準の適合に
向けた計画書」を
提出・開示

・判定基準日

「プライム市場」
上場維持基準

・判定基準日

「プライム市場」
上場維持基準

適合に向けた取組み

企業価値の向上

コーポレートガバナンス
の強化

I R 活動の充実

適合

適合

継続して取組む

1日平均売買代金
23,451,865円

1日平均売買代金
31,000,000円 以上

売買代金合計(1~9月)

7,634.1M円

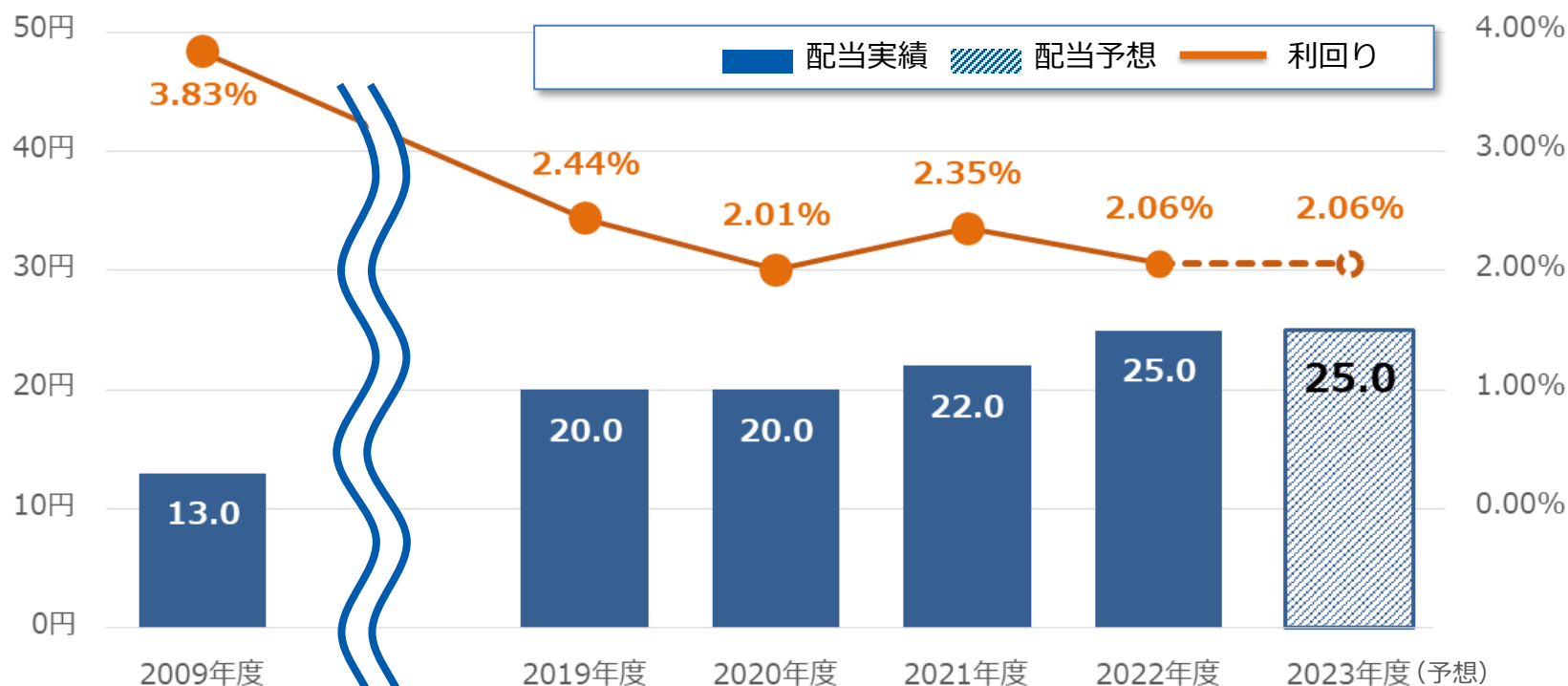
値付日数(1年間1~12月) 245日

	上場維持基準	当社の状況
流通株式数	20,000 単位以上	173,114 単位
流通株式時価総額	100.0 億円以上	168.0 億円
流通株式比率	35.0 % 以上	79.4 %
1日平均売買代金	20,000,000 円 以上	19,727,161 円

2023年度 配当予想

基本方針

株主への利益還元と内部留保の充実を総合的に勘案し、
収益性、成長性、企業体質の強化を考慮しつつ、
安定的な配当の継続維持。



株価(円)	339	821	997	935	1,211	—
配当性向(%)	38.13	30.95	27.31	30.71	27.75	25.27

※配当利回りは年度末(3月末)の終値を用いて算出しています。(2023年度は2023年3月末の終値を用いて算出)



参考資料

参考文献

会社概要

(2023年9月30日現在)

プロフィール

商号	八洲電機株式会社（証券コード：3153）	
代表者	代表取締役会長 兼 CEO 太田 明夫	
	代表取締役社長 兼 COO 清宮 茂樹	
本社所在地	東京都港区新橋三丁目1-1	
創立年月日	1946年8月8日	
従業員数	連結 986名 単体 515名	
資本金	15億85百万円	
八洲電機グループ	9社	(八洲電機(株)含む)
営業所 等	全国38箇所	(グループ会社含む)

事業概要

事業内容	電機制御機器・電源機器・空調機器等の販売を行うと同時に、 システムの設計・施工・保守等を展開するエンジニアリング会社
セグメント	プラント事業、産業・設備事業、交通事業

経営理念・経営ビジョン

経営理念

信・愛・和

信は、「ステークホルダーに信用・信頼される会社」

愛は、「お客様に奉仕する会社」

和は、「社会に調和し、社会貢献する会社」

経営ビジョン

クオリティの高いサービスを通じ、お客様とともに価値を創造する
ベストプランナーとして環境配慮型社会に貢献する。

沿革

1946年	： 八洲電機商会創立（神田須田町）
1956年	： 本社を港区芝田村町（現 新橋三丁目）に移転
1960年	： 社名を八洲電機株式会社に改める。
1976年	： 八洲電機サービス株式会社（現 八洲ファシリティサービス株式会社）設立
1988年	： 株式会社中国パワーシステム設立
2008年	： ISO/IEC27001認証取得
2009年	： 東証市場第二部上場
2011年	： 幸栄電機株式会社（現 八洲制御システム株式会社）を子会社化
	： 東証市場第一部上場
2014年	： 公益財団法人八洲環境技術振興財団発足
2016年	： 創立70周年を迎える。新本社ビル完成
2017年	： 産業電機機器事業を分社化（八洲産機システム株式会社設立）
	： エンジニアリングセンター開設(荒川区東日暮里)
2018年	： 空調・給排水衛生設備工事事業を分社化 （八洲環境エンジニアリング株式会社設立(現 八洲 E I テクノロジー株式会社)）
	： 株式会社三陽プラント建設（現 八洲プラント建設株式会社）を子会社化
2019年	： 情報・通信システム事業を分社化 （八洲情報システム株式会社設立(現 八洲 E I テクノロジー株式会社)）
	： 株式会社西日本パワーシステム設立
	： エンジニアリングセンターを港区芝に移転
2021年	： 創立75周年を迎える。
2022年	： 八洲環境エンジニアリング株式会社を存続会社として八洲情報システム株式会社と合併し、 八洲 E I テクノロジー株式会社へ商号変更
	： 東京証券取引所プライム市場に移行

経営指標

(金額単位：百万円)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
売上高	69,828	70,190	59,194	60,038	60,270
経常利益	2,523	2,658	2,314	2,251	2,929
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,836	1,394	1,571	1,527	1,916
純資産	20,089	20,924	21,969	23,046	24,392
総資産	58,783	57,045	53,308	50,934	58,738
自己資本比率 (%)	33.52	36.01	40.80	44.85	41.20
ROE (%)	9.65	6.93	7.43	6.85	8.15
ROA (%)	3.08	2.41	2.85	2.93	3.49
従業員数 (人)	1,037	1,048	1,004	990	980

株式指標

(金額単位：百万円)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
株価 (円)	828	821	997	935	1,211
時価総額 (億円)	178	177	212	199	256
配当性向 (%)	23.53	30.95	27.31	30.71	27.75
配当利回り (%)	2.42	2.44	2.01	2.35	2.06
PER (倍)	9.74	12.70	13.62	13.05	13.44
PBR (倍)	0.91	0.86	0.98	0.87	1.06
EPS (円)	85.01	64.61	73.22	71.63	90.10
BPS (円)	913.52	951.29	1,021.38	1,070.92	1,141.83

※株価は年度末（3月末）の終値を記載し、各項目はその株価を用いて算出しています。



八洲電機株式会社

東証 プライム市場 証券コード：3 1 5 3

<https://www.yashimadenki.co.jp/>

I R広報部

TEL) 03-3507-3349

FAX) 03-3507-3966

e-mail) ir@yashimadenki.co.jp